

主な活動トピックス（2010年1月～）

2/1	<p>ハイチ被災者結核対策募金を開始 水道橋ビルにてハイチ被災者結核対策募金を呼びかけるとともに、S T B Jリーフレットを配布。</p>
2/2	<p>世界結核デーに向けた記者発表（厚労省） 世界結核デー（3/24）に向けて 1. 世界結核デーのスローガン「技術革新で結核対策を加速しよう」 2. 国際結核セミナー・世界結核デー記念フォーラム・全国結核対策推進会議 3. 日本・フィリピン結核患者交流事業 4. ハイチ地震と結核対策 5. 最新の世界の結核統計</p>
2/4.6	<p>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会 結核予算に関するヒアリング（厚生労働省、外務省より） 平成 21 年度補正予算、平成 22 年度予算について</p>
2/15	<p>フィリピンのマニラ市において、日本・フィリピン結核患者ワークショップを実施。 （国際コミュニケーション基金（KDDI 財団）の助成） 目的：結核患者自身の積極的な証言活動を後押しすることで、患者コミュニティの活性化を図るとともに、一般社会からの注意の獲得を目指す。</p> 
3/4	<p>世界結核デー記念フォーラム 「結核のない世界～結核対策は公衆衛生政策の原点～」 田中慶司事務局長が座長を務めた。</p>
3/24	<p>世界結核デーの普及啓発活動を実施。 水道場ビルにて、世界結核デーと高齢者と結核に関する資料を配布。</p>
4/1	<p>米国ワシントンにて、ACSM フォーラムを実施（米国際交流基金日米センターの助成） 参加者は日・米・英の ACSM 活動に関わる関係者。IMF の訪問も行った。</p>
4/13	<p>NGO 定期協議会 NGO・外務省定期協議会の臨時全体会議。岡田外務大臣（当時） 福山外務副大臣（当時） 及び西村外務政務官（当時）の出席の下、外務省が進めているODAの在り方に関する検討について、 外務省とNGOが意見交換。</p>
4/15	<p>アクションプランフォローアップ会合に参加。 各団体・機関からの報告 特別テーマ「世界基金と協力強化」</p>
5/18	<p>大阪あいりん地区ヒアリング （国際コミュニケーション基金の助成）</p>

5/20・21	<p>日本結核病学会 STB Jとしてブース展示 展示テーマ：ACSM（アドボカシー、コミュニケーション、ソーシャルモビライゼーション）</p>
5月末～6月中	<p>耐性結核新薬開発基金に応募があったものの、申請者より、申請の取り下げがあり、運営委員会は中止</p>
6/1	<p>『国際開発ジャーナル』での記事掲載 「日本・フィリピン結核患者交流」について</p>
6月中～	<p>結核注意を呼びかけるチラシ 配布開始 主に若者・実年層に対して結核注意を呼びかけ、早期発見をめざすチラシを制作 裏面はSTB Jの広報、国内外の結核問題認知が目的。 （日本ベクトン・ディッキンソン支援）</p> 
6/12・13	<p>アフリカンフェスタ 2010 横浜レンガ倉庫（外務省主催） 来場者 20 万人 エイズ予防財団との共催 展示テーマは「結核とHIV/エイズの二重感染」 結核早期発見をよびかけるチラシ（日本ベクトン・ディッキンソン支援）などを配布。</p> 
6/14	<p>第63回WHO総会結果に対する情報収集 厚労省武井国際協力室長に対して、概要など情報収集を行った。</p>
7/21	<p>関西地区のこれからの結核対策のあり方を考えるセミナー・意見交換会 関西大学社会安全教育学部主催、STB J共催。 田中事務局長が、「ストップ結核パートナーシップ日本の設立の経緯と将来展望について」発表を行った。 I部 参加人数 80名 II部 意見交換会 40名（日本リザルツより資金援助）</p>

		
7/29	国際ラウンドテーブルに後援 （日本リザルツ主催）	
8月～	ニュースレターの発行開始 個人会員とのコミュニケーションの充実を図り、結核問題、STBJへの参加意識を高める為、ニュースレターを発行。今後約2か月に1回発行予定。	
8月	「Meetu」8月号 広告掲載 ドラッグストア用情報誌 発行部数 150,000部、全国、4C1P、 ビジュアル：咳をする女性（結核注意を呼びかけるチラシと同じ） （日本ベクトン・ディッキンソン）	
9月～	高齢者結核注意喚起ポスター 配布開始 高齢者に対して結核注意を呼びかけ、早期発見をめざすポスターを制作（日本ベクトン・ディッキンソン支援・共催、厚労省推薦、日本医師会後援） <ul style="list-style-type: none"> ・四病院団体協議会関連の約7400病院へ配布。 ・ウェストジャパン興業の運営する教習所の高齢者講習用教室での掲示（全国21教室） ・ニュースレターなどで団体・個人会員へ啓発協力を呼びかける 主に、関西地区、長野より協力の申し出があった。	
9月1日	パキスタン水害に対する結核支援要望書 提出 外務省国際局 国別開発協力第2課アフガニスタン支援室 課長補佐 芦田克則氏へ提出	
9月	MDGsサミット 新国際保健政策骨子 今後のNGOの要望に結核対策を盛り込むようフォローを行った。	



<p>9/8</p>	<p>結核予防週間へ向けた記者発表（厚労省記者クラブ）</p> <p>発表者：森代表理事、石川結核研究所所長、永田結核研究所保健看護学科長、 司会：田中事務局長</p> <p>「結核予防週間直前～結核の現状と結核対策の最新技術～」について、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1．結核の現状と今後の課題 「結核の統計 2010年」(石川所長) 2．結核対策の革新（森代表理事） 3．結核予防週間への結核予防会の取り組み（永田保健看護学科長） <p>共同通信より取材依頼があった。</p> 
<p>9/16</p>	<p>ハイチ援助会（シスター須藤昭子）へ募金を送金</p> <p>募金総額 ¥ 158,899（結核研究所 ¥ 78,641、S T B J ¥ 80,258）</p> <p>ハイチ地震による結核対策支援に対する募金を日本リザルツと共同して行った。 （2月～8月）</p>
<p>9/20-22</p>	<p>MDGs サミットへの参加</p> <p>MDG 6 関連サイドイベントに出席、政府代表者、NGO、患者代表者、ストップ結核大使などに対しアドボカシー活動を行った。</p> 
<p>10月～</p>	<p>新ホームページ公開</p> <p>より見やすく、タイムリーな情報提供が可能となった。 http://www.stoptb.jp/</p> 

10月～	<p>結核問題認知・S T B J 広報リーフレット配布開始</p> <p>国内外の結核問題認知・興味関心の醸成、一般の人々へ支援をよびかけるリーフレットを作成（日本ベクトン・ディッキンソン支援）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ウェストジャパン興業の運営する教習所での配布。年間30,000部（予定） ・ニュースレターなどで団体・個人会員へ啓発協力を呼びかける <p>主に、関西地区、長野より協力の申し出があった。</p>
10/2-3	<p>グローバルフェスタ（日比谷公園）外務省主催 結核予防会と共同でブース展示 リーフレット2000枚、チラシ300枚、団体概要20部 配布。 10/3 ワークショップ「国際協力と結核-フィリピン貧困地区の現場から」予防会と共催</p> 
10/6	<p>ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟総会 ・会長の選任・役員指名・H23年度結核対策予算のヒアリング（外務省・厚労省）</p> 
10/27-29	<p>公衆衛生学会総会 東京国際フォーラム 田中事務局長「潜在結核治療の実態と管理目標」ポスター展示発表 発表資料、S T B J リーフレット、を配布。 バッジ募金¥4000</p>
11月	<p>「結核対策の最新技術」記事となる 9/8 記者発表を受けて、共同通信が栄研化科学株式会社、森代表理事を取材、記事を配信。 下野新聞 11/12 大分合同新聞 11/13</p>
11/9	<p>アクションプランフォローアップ会合 各団体・機関からの報告 特別テーマ「世界基金と協力強化」</p>
11/13	<p>2010年ベルリン・ユニオン大会（IUATLD） 英国結核議連事務局主催の「結核と議員」会合において、ストップ結核パートナーシップ推進議員連盟 梅村聡会長は、国境とセクターを超えたネットワークをより強力なものとし、共に結核のない世界をつくるため、S T B 推進議員連盟はともに闘う旨のメッ</p>

	ページを送った。日本リザルツがA P P Gに届けた。
11/29	結核対策特別促進事業費について要望書 403 百万円から 253 百万円へ予算額が減額された事に対するの要望書を提出。 11/2 厚労省情報収集、11/5 梅村事務所訪問、協力要請 11/11 外山健康局長へ提出 11/29 阿曾沼事務次官へ提出
11 月	G D I ・ I D I に加入 11/18 の懇談会で正式メンバーとなる。
11/18	G I I ・ I D I に関する外務省/NGO懇談会に参加 <ul style="list-style-type: none"> ・ 国際保健政策の実施方針・実施計画およびNGOとの連携 ・ 国際保健政策の認知・普及に関するGO/NGOの連携
12/27	日経新聞 15 段 朝刊 記事広告掲載予定 リウマチ財団との共同企画 目的：生物学的製薬投与治療への正しい理解と結核に対する理解促進 「進歩した関節リウマチ治療を結核でストップさせない ～まずは事前の対策。次いで早期発見と専門家の対応～」
H23 1/15	国際シンポジウム ～世界から関西の結核を考える～ 国際的な結核対策のパートナーシップ戦略から、関西地区のこれからの結核対策のあり方を考える。 主催：S T B J、関西大学社会安全学部 協賛：日本リザルツ 後援：外務省、厚労省、大阪府、大阪市、財団法人大阪公衆衛生協会、結核予防会大阪府支部、S T B 関西
	リウマチ財団ニュース（3月号）特集記事掲載予定 目的：リウマチ関係医療従事者に対して、リウマチ患者は結核発病のリスクが高いことの注意喚起

